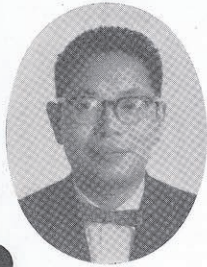


FUKUSHIMA J C NEWS

1963 11

＝ 各 委 員 長 は 語 る ＝



総務委員長 央戸真一



修練委員長 池田吉三郎

理事長曰く、64年度のテーマを決せよと、然して又、広報委員長重ねて曰く、これをJ Cニュースに掲げんと。当生、女人、童子に強けれど、いささか文筆に弱く大いに困惑したる也、時やよし総選挙の秋とはなり世のうつろいに習いて、公約をこそ掲げたり。

答えて申す

「各位の品格を探るべしここに問題を呈示なし、而かり、然して、考え、行をなし、直観を養うべしと」

扱へんな論語は一応ここに措くとして我々J Cの仲間は何をもって集まったか、考えて見たい。極論すれば「足らざるを満たし合う」と云う事ではなかつたらうか。然らば何をもって足らざると為すか。この規範が広く深いだけに、割り切った観念で物事が律しきれず、運動は右に左に揺れ動いて定まらないかに見えるがこれも一つのテーゼを踏み切れば多様な成長を見せ乍らシンテーゼに達する訳で、先ずはテーゼを設定したい。加えて福島J Cの場合は設定後日浅く諸兄のモラルを把握しきっていない点、又把握する手法すらが確立されていない等、問題が山積している訳で、総務委員会としては先ずこの辺から手をつけたいと考えている。賢兄の品格を探るべし等と大題目を掲げたが要は品格の Informal-Organization を知って、初めて福島J Cの一応の公式組織が定まると考えて、一日も早く福島J Cとしてのモラルサーヴェイを実施し、足らざるを明らかにし。諸兄に考えるJ Cとしての資料をお届けしたい(この点東京J Cの「青年経営者の生活と意見」と題する労作に敬意を表します)

次に運動テーマとして設定された県北都市問題を通じて幅広い視野を身につけたいと思う。農工商消費者を含めた広い経済観、地方財政、産業構造のあり方、教育文化衛生税金、等の生活環境、一そしてこれらをめぐる行政の具体的な話題をピックアップして例会運営を計りたいと考えます。しかしここに一言附すれば聞く例会にあっては、知識の切売り、或はダイジェスト版に於て所謂足らざるを満たし合うと云う精神的で且情緒的な要求を満足させるには至らないと思います。そこで逆説的に云えば多分に人間味のある、且は色も豊かな賢兄を充分に活用する予定です。何卒お怠りなく御用意の程を。

つけたりを申すならば温室を飛出た、行をなすJ Cであって欲しいし、その行が着実に地についた心の喜びであって欲しいと念じて居ります。合掌

年に一度か二度の映画を観たせい秦の始皇帝の言葉が未だに記憶の中に残り、自らの立場とその義務に自覚発奮せざるを得ない。

臣農民に投げた<偉大な人間は偉大な希望を抱く>文書の解釈判断は人生観により差はあれども、私は指導者(経営者)として日常忘れ得ぬ言葉と信じている。

私は青年会議所設立後、微才をも省みず指名されるままに引受けた修練委員長の席も3ヶ月を経、当会議所としてのテーマ県北都市開発問題についての基礎調査の指示を受け、委員会活動に入ったわけだが、設立総会に知事より課せられた飯坂との合併問題及び本年度年次大会に主唱された地域経済開発とJ Cの役割等についてそれぞれの例会議に出席し報告論議される度、今更乍らその重職を悟り責任を感じた。しかしただ事志に副えない行動に自訟せざるをえないが、新たな責務を痛感した。

今後は各委員の個々の立場に於いて始皇帝の言葉を借りるのではないが広義な観察で委員会の職務分掌にある指導者修練を基調とした感覚を自発的に運営面に推進させ、当面せる県北総合開発問題等についても、もっと掘下げた積極的な意見の交換、発表を行動面に啓発し合い常に広い視野に立ち、地域社会発展に寄与しうは各企業の成長に結ぶ感覚の醸成に自ら率先牽引力となるべく努力したい。

そして将来の福島を背負う青年会議所の一員として身を以て奉仕実践して短い正会員としての資格年限を全うしたいものである。

昭和38年定時総会

福島青年会議所

昭和38年度第1回定時総会は10月19日午後5時から福島市北町日産ホールに於て会員50名の出席を得て行われた。坪井副理事長の開会宣言J Cソングの斉唱に始まり、議事録署名人に小浜、鈴木義両君を選任、議事審議に入った。

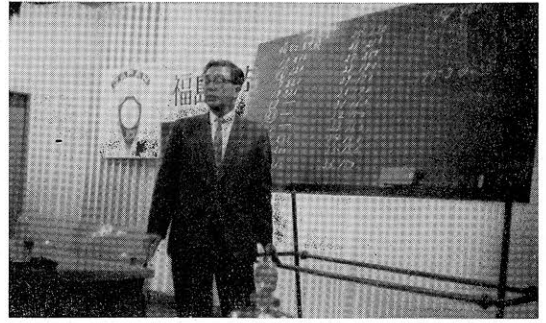
第1号議案 昭和38年度一般会計報告に関する件

第2号議案 昭和39年度運動基本方針

第3号議案 昭和38年度収支決算、39年度収支予算に関する件

第4号議案 新年度役員改選に関する件

以上の議案審議は全員異議なく、又織田理事の停年解任に伴う後任理事は溝口茂男君を満場一致で選任、全議案の審議を終り、宮村副理事長の開会宣言で第1回定時総会は5時50分終了した。◎尚今総会に於て矢萩理事長より10月4日金沢で行われた日本青年会議所全国大会に於て福島J Cが全国で第247番目のJ Cとして正式に証認された旨の報告があり、認証伝達式は明年春頃に盛大に行いたい旨の提案されました。



一 国難ともいふべき我国の求人難 一

日本商工会議所経営管理専門委員

福士敏光氏

1963年福島青年会議所定時総会終了後、同氏の講演があった。計数的に克明に説明され有意義であった。その要旨は

現在の我国の求人難の波は中小企業のみならず、大企業にまでおしよせている。

今までの人海戦術、低賃金を基盤としている我国の工業は現在の求人難と自由化貿易の影響によりその体質の改善を強く望まれている。その求人難も出生数等から7年後にその最大の危機に直面すべくそれまでに政府も大企業も中小企業も国をあげて何らかの対策を立てなければならない。そして青年のファイトある活動を期待する次第です。

県北都市問題について 10月15日 修練委員会

テーマ 地域開発の促進

ゲスト 市役所の河原田企画室長と鈴木建設部長の両氏。

①河原田企画室長よりは、基本構造と基本計画について詳細な話があったが、要するに行政目的は福祉の増進、向上即ち市民の所得を増やすことが目的で、関係する18市町村に呼びかけ、信夫郡、伊達郡、安達郡に、各々協議会をつくる気運に在り、除々に具体化されつつある。国勢調査の結果をみると、人口は大部分の市町村でへってあり、42万人位で30年から35年にかけての経済成長の割合に減って居るといふことは、くらしのいい関東、京浜地方に人口が移っていることである。昭和36年度で国を100%とすると、74%程度の所得で後進県といわれる所以である。今回誘致の四工場は産業構造に大きな変化を齎らすことであろう。当初の中は多少の摩サツはあっても地域開発の促進という点から見ると合理化に役立つことであろう。

② 鈴木建設課長よりは

(1)道路の問題は南北線は一応目鼻がついたが、東西の線は進歩

していない。道路関係の予算は県内で年間3億程度のうち市として3億程度が限度であろう。

(2)下水の問題は、全国で県庁所在地として下水のないところ三つか三つで、今年より漸く着手されることになった。他よりの遅れをどの様にして取り返すかが問題。

(3)四号国道では橋では一番早く出来た信夫橋と松川橋のみ残り特に伏拝の坂が一番早く出来て一番遅れた。信夫山のトンネルや伏拝の坂道より西の方を廻るバイパス道路を具体化することを考慮中。山形は仙台を通った方が早くなるが、13号国道線は福島地区の大笹生か平野あたりにインタンチェンジをつくると価値が出てくる。東北縦貫道路バイパスは、今は金がかかっても将来は有利になる。

これの二枚組の詳細地図の寄附を得ましたので、J C事務局に備付けておきますからどうぞ御らん下さい。



東邦銀行

取締役頭取 須藤仁郎

金沢大会印象記

理事 内池 宏文

「福島J.C諸君来年は皆んなで岡山大会に参加しよう。」

私は昨今、「加美の素」を使用し始めた。これは、私の若くありたいと、希う一つの表現である。人は笑うかも知れないが、私にとっては真剣な行為である。

内外共に、老化せんとしていた私も、去る7月の福島J.C発足以来、大分心臓の鼓動が変化して来たようだ。言わば、春先きのそのように……最近J.Cニュースを見たり、特に1960年日本J.C四国地区協議会発行の「J.Cは斯く考える……」を見て特に考えさせられるものがあり、やらねばならないと、一種の焦燥感をさえ感じている。そんなJ.Cも、あと1年でOBであるが、ともあれ私が永久に青年と名のつくグループに席を置けるのは無上に嬉しい事である。

そんな気持ちになっている私にとって。

ただ「FJCOB」として席を温めるに忍びず、OBらしい経験を持つ責任を感じ、大会出席と相成った次第である。

J.Cに就いて、今更私が云々すべき事は無いので、一、二、印象記と云う程ではないが、お粗末乍ら、その実際に感じたところを記して見たい。

言うまでもなく「若い我等の集い」は、修練、奉仕、友情である。

「修練」とか「奉仕」とかなると、何とか形あるものとして受け取れるが、「友情」と相成ると、仲々形あるものとしては、受け取れないものである。

それが私共には十二分に受け取れたのである。（ここに敢えて私共とダブルと使用したのは、私と愛妻とが共に全国大会に出席した事を意味しているのだが）……1人より2人が、同じ事を感じたのは我々がJ.Cに取って祝福すべき事である。

最も最近の福島に取っては、このケースが多いので大いに意を強する次第である？紙面も少いので、総会に話した事を二重記録する事も意味無いと思うから、二つ三つ大会の事実を披露して貰を果したい。

◎本会議のJ.C紹介で、出席人員が多かったり、ハッピーを着たり、ハワイばりのレイを掛けたり、無言で起立して見たり、色々と趣向を凝らして、ユーモアが漂っている。中に取り分け感じさせられたのは、レスリングの勝者宜しく、愛妻の手を高く挙げて起立した人。又我が愛児を誇らしげに高々と差上げた人。

◎沖縄代表と韓国代表に、日本人形を贈呈し彼等も亦夫々記念品を贈呈した光景はほほ笑ましいものがあった。

◎我々日本J.Cは、特別決議を以て、沖縄開発の特別援助を政府に要請した。

◎韓国代表は、来年は1時間50分で行けるソール（来年の世界開催地）で会いましょうと云って帰って行った。

◎夫婦同伴者は、全行程を通じ、他のJ.Cメンバーの犠牲に於いて常に個室を提供された。（ちかっとくだけで失礼）

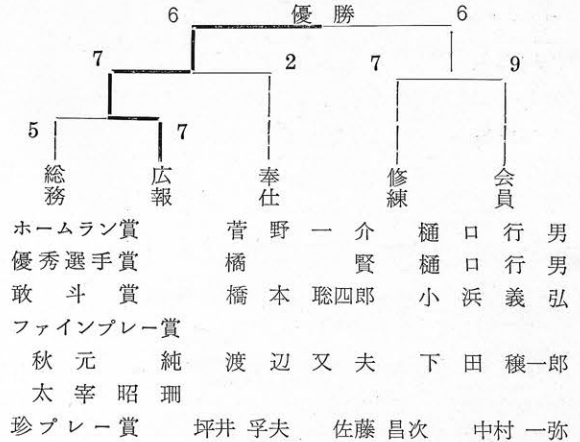
「岡山大会参加の準備は、今直ぐ始めよう。」



軟式野球大会開かる

広報委員会が初優勝

10月14日委員会対抗の野球大会が、県営グラウンドで行われた。若さ？にあふれた好プレー珍プレーが続出し、熱戦が繰りひろげられた。優勝の呼び声が高かった会員委員会は、最終戦に広報委員会と6対6の同点のまま延長9回、日没の為抽籤の結果惜敗した。対戦成績及び個人賞は次の通り。



J.Cに何を望むか

<アンケート4>

福大学芸学部 平井 博

- 1、青年ほど年をとり易いものは無い事をよく認識して若さを効果的に利用すること。
- 2、青年に勉強する機会を生み出す様に心がけること。
- 3、目さきの事にばかり捕われない事。

福島婦人少年室長 朽葉 繁子

① 18才未満で各職場で働いている年少者が、福島市管内でも相当数（7000人位）います。中卒で幼なくて働かねばならないこの年少者達の労働保護と福祉の向上について、一層の御支援御協力をいただき、定時制通信教育、その他の勉学の機会も与えられて正しくすこやかに伸びてもらいたいと思っています。具体的に関係機関の行事に積極的参加、協力の外、自主的に座

談会、懇談会の開催も（労、使、その他の関係者）又レクリエーション、スポーツ、研修会の計画等お願いします。そして良い相談相手になって年令的にも最も近い兄、姉として、御活躍を期待します。

- ③ 第17回働く年の者の保護運動が11月1日から10日まで労働者の主唱で全国的に行われます。今年の目標は、明るく、ゆたかな余暇生活をすすめるために、おとなの積極的な援助を一ととなっているので、余暇生活の有効な仕方です健全育成をはかることの成果が挙げられるように努力願います。
- ② 良い働く年少者のグループ作りとその活動の育成指導、援助を各面と連絡提携してお願いしたい勤労青少年ホームの建設にも努力されたい。

奉仕委員会のアドバイスで

「若い根っ子の会」福島グループ誕生

10月7日渡辺康吉君の好意により福島市栄町のシノブ自動車3階ホールに於いて待望の若い根っ子の会福島グループが設立総会を持った。

是れはかねてから奉仕委員会が、その事業の一つとして取り上げていた事で、その結成を援助して此の日を迎えたのである。

総会には郡山グループから2名のリーダーを招き、中合勤務のやまひろし君が司会となり、福島市内の病院、商店等に住みこみで働らく男女25名が集合、楽しさと若

さのあふれる中に立派な福島グループが生れた。

同会は会員相互の親睦を図り乍ら、それぞれの立場で働らく楽しさと若さを分け合って若人らしく生きぬく集いとして固く結ばれたものである。

今後同会の発展のため、我等会員は惜みなく援助を与えてほしい。尚11月15日は桜ヶ丘病院に於いて第3回の集いを催す予定である。

委員会報告

＝ 総務 ＝

10月総務委員会報告書

日時 昭和38年10月2日 P.M.12.00
～1.20

場所 中合特別室

出席者 尖戸、尾越、大竹、早坂、山田
倉島、鈴木、小林専務理事

議題

○10月例会開催の件

本委員会に於ける準備事項

①事業報告書の作成

②出席者単位の中間発表

尾越、今井両君の担当で事務局よりの資料を整理、規定率に不足の会員に対して出席勧告を行う

③総会ゲストスピーカーについて

④総会について

○11月例会スピーカーの件

10月に予定した福島民報社長飛島定城氏を第一候補とする。 以上

広 = 報 =

J Cニュースも回を重ねて今度で4回目ああしたいこうしたいと思ってもなかなか思うようにいかないものです。そろそろ福島 J Cらしい型をつくっていきたくて去る9月28日三役並びに各委員長副委員長のお集りをねがって御高説を拝聴した。

○題字について他の J C の模倣のようであるので一考ねがいたい。



○結果の集録ばかりでなく会員の意見、趣味の欄等もうけひろく会員の投稿を御願います。今回その手始めとして一面に各委員長の言葉をのせた。

○広報としては今の版を大きくして広告欄をつくり財政的にも余裕を得ると共に会員放談の欄を大きく設ける。

○毎月のアンケートについて各委員会で御検討願ひ取り上げ得るものは取上げていただき度い。

＝ 11月行事予定 ＝

11.6 12:00 総務委員会 中合
11.7 12:00 会員委員会 辰巳屋
11.9 会員委員会主催射撃大会

メ 切 日

11.12 18:00 理事会 グリル民報
11.13 18:00 11月例会 グリル民報
未定 12:00 広報委員会 ピーコック
11.14 10:00 射撃大会 大笹生射撃場
11.15 18:00 根っ子会会員と奉仕委員

会交献会 桜ヶ丘病院
11.19 12:00 修練委員会 ヒロセアン
11.21 12:00 奉仕委員会 ヒロセアン
未定 委員長副委員長会議

編集後記

○会員の皆さんとどんでん御投稿下さい。何んでもいいのです。感じたこと見たこと、こうありたいと思ったこと、毎月25日まで福ビルの事務局まで御送り下さい。匿名でも結構です。

グリーン

◎会員期待の委員会対抗親善野球大会は稀技珍打をおりまぜての大熱戦を展開したがそのこぼれ話

(1)何といっても庄巻は、当日スタンドを彩った飯坂キレイ所紅5点、しかも観戦中の紅唇からとぶ野次の痛烈なことそれとは知らず会員諸君、声がかかるたびに自分のことを、応援されていたかと思ひ、ソワソワしたりニヤニヤしたり、気取ったり、これを称して、知らぬが仏。

(2)普通野球とはグローブでボールをとるもの、グローブもそのためにあるわけだが、総務の尾越君、レフトを守ってフライがくると、両方の腕でシッカリと胸の中にだきしめてとるそれを見、スタンドの声「あれは尾越君の悲しき習性かね!」。

(3)全国大会でのエピソード

(1)福島 J C 中只一人の夫人同伴者内池君、金沢 J C の粋なはからいで理事長一行とはなれて、別な宿舎しかも、その部屋はダブルベッドさぞ、若き日を回想して、楽しい一夜と思っていると翌日夫人の晴れやかな顔に比べて、御当人はしぶい顔夫人にソッと聞いてみると「ダブルベッドだ!」なんて喜んでいたので、夜中に見事にベッドから転落したそうで、それでも内池君は「落ちたのが俺でよかった」と最後迄フェミニストぶりを発揮していました。

(2)金沢といえば、宮村副理事長の故郷がすぐ金沢の隣り宮村君盛んに金沢の通ぶりを発揮していましたが「金沢一のうまいなぎやにつれていくと云って行くと違ううなぎやに連れて行き、出てきて、少し行くともう一軒のうなぎやがあり、それを見ると「しまった!ここだった」などと云ってみたり金沢名物ゴリ という魚の画をみて「あれが金沢名物の魚でコキブリっていうんだよ!」なんてすました顔で、とんでもない間違いをしたりやはり”故郷は遠くにおりて思うものらしいです。

◎広報委員会第2回ゴルフ講座は樋口助教の指導で11月5日オノヤ屋上で行なわれたがその帰り丸上の50円のライスカレー皆んなでバクツキそのつければ専務理事にまわせとはチトひどい。

福島青年会議所会報第4号

昭和38年11月12日

発行 福島青年会議所

(TFL 2-5412)

編集 広報委員長 秋元 純

印刷 日本五色印刷株式会社